

## 《ワークショップ参加者からの情報》

### 身近に感じられる気候変動の影響事例

- 夏・秋の暑さ・豪雨について
  - ・ 学校のエアコンがついていても暑いと感じる日がある。
  - ・ 以前だと夏の夜は網戸で窓を開けておけば寝られたが、今ではエアコンが必要になった。
  - ・ 小さい頃は「熱中症」という言葉を聞いたことがなかったが、今では知らない人はいなくなった。
  - ・ 雨の回数自体は減少したが、大きい台風や豪雨が増えた。
  - ・ 扇状地などのこれまで水がなかった地域でも、水があふれ出すことがある。
  - ・ 豪雨に伴い、川があふれることへの心配が増した。
  - ・ 今までは雨が降っても流れてしまうため、いかに保水していくかが問題であったが、逆の発想（いかに水を流していくか）に切り替える必要があるかも知れない。
  - ・ 那須塩原市では、雨は降りやすいが、扇状地で水が染み込みやすく、洪水はあまり起きなかったが、今後、雨量が増えることで伏流水の出口で水が溢れて洪水になる可能性があるように思う。
  - ・ これまで安全だと思っていた市役所などの主要な施設がある場所で、洪水が生じることが心配。
  - ・ 四季がなくなったわけではないが、季節のめりはりが薄れてきていると感じる。
  - ・ 季節の境が曖昧になってきて、着る服に迷うことがある。
  - ・ 11月半でもまだ暑く感じることもある。
  - ・ 紅葉が鮮やかに色づかずに落葉してしまい、美しい紅葉の時期が短いと感じる。
- 冬・春の寒さ・雪の減少について
  - ・ 地元のスキー場が人工雪で成り立つ時期が多くなった。
  - ・ 降雪量が減ったため、スキー場開始時期が遅れ、雪質が低下した。
  - ・ 雪が減少してスキー教室ができなくなり、教育にも影響が出ている。
  - ・ 小学校の図工や体験学習で雪を教材として利用できなくなり、単元の変更が必要になっている。
  - ・ 足先が痛くなるほどの冷えが感じられる日が多くなった。
  - ・ 観光客を迎える塩原温泉で雪かきの回数が減少した。
  - ・ 塩原温泉で観光客から雪見風呂の希望が出ても紹介できなくなった。
  - ・ 雪が少ないため、冬でもスタッドレスタイヤを履かなくても良くなってきた。
  - ・ 降雪量が少なくチェーンが必要ないにもかかわらず、観光客にその情報が届いていないため、道路の舗装が傷むようになった。

- ・ 日塩もみじラインはチェーンをするよう呼びかけてきたが、最近は雪が少なくて逆に道路が痛むため、チェーンを付けないようにお願いをしなくてはいけなくなった。
- ・ 降雪量が減ったため今年の水不足を懸念していたが大丈夫だったようだ。
- 生活・農作物・生物について
  - ・ コメの収量が減少したり品質が低下している地域がある一方で、もともと寒かった地域では品質が上がったように感じられる。
  - ・ コメを作ることのできる範囲が北上し、コメがとれるようになった。
  - ・ カメムシによるコシヒカリへの被害が増えたと感じる。
  - ・ 地酒の鳳凰美田に用いるコメの品質に変化が生じているのではないか。
  - ・ 山の環境が変わり、イノシシやハクビシン、クマなど鳥獣被害が増えた。
  - ・ スーパーに売っている野菜の値段が上がっているように感じる。
  - ・ 環境関連の用語を聞く機会が増えたように感じる。

### 地域での対応策（市民としてできること）

- 行政サービスへの期待について
  - ・ 国レベルでの対応が必要になっているように思う。
  - ・ 地域特性や危険性を十分に考慮したうえでのまちづくりが必要。
  - ・ 洪水の危険がある地域の開発については、市民への情報共有がより必要である。
  - ・ どのくらいの雨で被害が出るのかといったことを住民に伝えるサービスが必要。
  - ・ 対応を促すことができるよう、早めの降雪量予報の共有が求められる。
- 地域社会の変化・環境配慮について
  - ・ 「今までなかったから大丈夫」と安心してはられない状況になってきている。
  - ・ 目先のことではなく、将来のために対策することが必要。
  - ・ 儲かる企業から環境にやさしい企業に変化するとともに、市民はエシカル（環境保全や社会貢献に積極的）な会社や商品を選ぶ行動が必要。
  - ・ 環境に配慮（温暖化対応）している会社の存在を周知させることが必要。
  - ・ 総じて、様々な人が集まり意見や現状を共有することで解決することが多いのでは。
  - ・ あらゆる人が気候変動に対して問題意識自体は持っていると思うので、それを実行に移せるような取り組みが必要。
  - ・ 気づいた人だけで終わりにせず、情報を共有・発信していくことが大切。1人1人の行動への強い呼びかけが求められていると思う。
  - ・ 断片的な情報しか得られないことがあるので、その改善が必要（単にプラスチックストローから紙ストローに変えるだけでは森林破壊は止められないかもしれない）。
  - ・ 塩原温泉にて、昔は地域の人達で川に降りて川辺の木や草の管理をしていたが、近年は高齢化の影響で作業ができない。最近石垣にひびが入ってきており、豪雨の際に石垣が決壊してしまったら大変なことになるとわかっているのにもかかわらず、対策ができずにいる。このため、若い人の力が必要だと思う。
  - ・ 世代によって、環境の変化に対して感覚にずれがある。若者には若者が興味のある人やモノ、コンテンツからエンタメ性をもって発信していく必要があるのではないか。
  - ・ 具体的な行動に結びつけるのが難しいが、環境問題・CO<sub>2</sub>の削減に関心を持つことが第一。
  - ・ 環境に配慮することはカッコいい、素敵という意識を広めてはどうか。
  - ・ まずは低いハードルを提示し、越えられたら次にといった形のゲーム感覚で（楽しみながら）取り組めるようにしてはどうか。
- 環境配慮・ゴミの減量について
  - ・ 那須塩原市ではプラスチックごみも燃えるゴミでひとくくりになっている。再利用できるプラスチックごみの分別を進めるべきである。
  - ・ 買い物の際はレジ袋の代わりにエコバックを用いる。

- ・ ゴミの分別や減量など市民活動で盛り上がるのが理想で、ゴミの袋に名前を書くようにルール決めている。
- ・ 紙の削減が CO<sub>2</sub> の削減と森林の保護につながるため重要である。
- ・ 地下資源の観点から、環境にとって何がよいもので何が悪いものなのかを教育していく必要がある。
- ・ 二酸化炭素だけでなくメタンなどの温室効果ガスについての教育も必要。
- ・ 車を使わず、公共交通機関を使う。
- ・ リサイクルや節電に努める。
- ・ 災害に備えて日頃から備蓄を行う。
- 温暖化に適応した地域環境の整備について
  - ・ 蛇尾川等伏流している川に排水用の道をつけることで疎水を排水に利用していくことができると思う。
  - ・ 森林の保水力が低下して洪水に繋がってしまわないように、森林の管理が必要。
- 温暖化に対応した生活の変化について
  - ・ これまでできなかったところでもコメがとれるようになる。
  - ・ 今まで作ることのできなかった作物が新しくおいしく作ることができるようになるかもしれない。